

ライチ便り No. 4

～福岡広州ライチ倶楽部会報 2009年2月号～

インターンシップ研修生受入れ



昨年秋から福岡市と福岡市姉妹都市委員会が準備を進めてきた「第1回インターンシップ交流」が2月5日～15日、実施されました。11人の研修生の受入れにはわがライチ倶楽部の企業会員が多数ご協力くださったので、色々な職種で日本の企業文化に触れてもらうことができました。

テストケースとして行われた実質4日間の研修プログラムは大好評のうちに終了し、学生達は沢山の経験と思い出を胸に帰国しました。今回の経験を基に、これからも若い世代の交流が継続されることが期待されます。

受入協力企業・団体：九電工、日本旅行、JTB、西鉄、西日本新聞、RKB、博多港ふ頭、ホテルニューオータニ、北京ニーハオ、福岡観光コンベンションビューロー、福岡市国際部（順不同）

第2回飲茶会開催

2月20日、広東外語外貿大学3年生の李燕さんを囲んで第2回飲茶会を開催しました。

24人の参加者は李燕さんの、パワーポイントを駆使した説明を聞き、「I love you.」の一言も広東語と標準語では全く違うことに驚いたり、「中国の北と南では、人々の気質にどんな違いがありますか？」等々色々な質問をしたりしていました。今回の飲茶の点心は会員の手作りだったので、“やや難あり”ではありましたが、約1時間の楽しい交流会となりました。

李燕さんは昨年11月に在広州日本総領事館がおこなった日本語弁論大会の大学生部門に出場。みごと福岡市長賞を獲得し、このたび副賞として福岡ホームステイの旅を実施した21歳のお嬢さんで、中国東北出身の朝鮮族。中国語と朝鮮語を母語とし、日本語は大学に入ってわずか1年半学んだだけということですが、それはそれは見事な日本語でした。



2月21日の西日本新聞に、この日の飲茶会のことが紹介されていました。

****2009年度の総会を4月23日18:00から行います。詳しくは後日、ご連絡します。**

広州関連イベントが続々

2月10日午後、西鉄グランドホテルで中国・広州セミナーが開催され、広州市旅游局の楊副処長と、広州ビジネスに詳しいアジアネット代表田中豊さん、イオンチャイナ食品商品部經理の深田実さんがそれぞれの視点から広州事情を紹介しました。

2月10日～15日には、広州市から旅游局、旅行者、報道記者等総勢12人を招いて、福岡の観光の魅力を知ってもらうための紹介行事が行われました。

こうした機会を通じて、福岡広州双方のより多くの市民が、互いに相手都市をもっと知るようになれば嬉しいですね。

“ライチ刈り広州ツアー” 計画中

あなたはライチが苺のように赤い果物だって、ご存知でしたか？ライチは赤くて甘い、熱帯地方特有の果物で、楊貴妃の大好物だったと言われています。

緑の葉の間にたわわに実った赤いライチを摘んで、その樹の下で食べてみませんか？

今年は福岡広州友好都市30周年記念年です。わが倶楽部では今、記念行事の一つとしてライチ刈り広州ツアーを計画中です。

概要は： 2009年7月9日（木）～7月12日（日）、福岡から広州へ往復。

費用はおよそ8～10万円か？…とのこと。

詳しいことが決まったら、改めて皆さまにご案内致します。ご期待ください。

** コラム・広州雑学 ④ **

広州—2222年の古都

広州は2222年の歴史をもつ古都だと言われると、「2000年余の…」という大まかな言い方に慣れている私たちはやや奇異な感じを覚えてしまいますが、広州の建都は「紀元前214年、秦朝のこと」と明確な記載があるのだそうです。さすがは歴史の国ですね。

当時秦の始皇帝が嶺南地方を統一し、任囂を南海郡尉に任命しました。任囂は今の倉辺路付近に番禺城を建てました。漢の高帝元年に任囂が死去すると趙佗が後を継ぎ、南武城を増築し、自立して南越武王となったそうです。

1980、90年代に、西漢南越王墓、南越王宮署遺跡、南越王御花園、南越王宮殿遺跡が相次いで発見されました。これら二千余年前の建築物や文物は当時の王宮文化や生活を表わす貴重なもので、なかでも南越王宮署遺跡の地下の石造建築は、中国国内には例がなく、古代ローマ城に匹敵するものと言われています。南越王墓からは金印もいくつか出土していますが、前漢（西漢）のものですから福岡の金印より少し古いこととなります。

さらに2002年6月頃、広州市の古い繁華街北京路の歩行者道路を掘削工事中、路面の下深さ3.8メートルの地層から11層の歴史路面が発見されました。上から順に民国、明代、宋代（第3～6層）、南漢（第7、8層）、唐代（第9～11層）のものだそうで、一緒に宋代の排水溝もみつかったそうです。唐代に低湿地を埋め立てて道や建物を建造したと考えられており、“千年の古道”は今日に至るまで絶えず建設され繁栄を続けてきた場所だと言えるでしょう。

（出典“走進広州”）

*会報を送付するのは電子メールが便利です。メールアドレスをお持ちの方は是非お知らせください。
連絡先：chiba.y01@city.fukuoka.lg.jp または y-chiba.naga@tnb.bbii.jp